

経営目標		取組内容	現 状 (数値は令和4年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	備考	
1	学力向上	① 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりの充実	・本校の研究主題、カリマネの柱である表現力の向上をさらに進めたい。教職員の発問、生徒の表現力の自己評価はともに肯定的評価は89%であるが、1回答は50%程度のため、1回答を増やすことを意識する中で、肯定的評価を増やす。 ・1人1台端末の活用については、昨年度までの研究を土台に実践が進んでいる。今年度はより効果的な利用に着目する。	・教職員は、生徒の様々な考えを引き出ししたり、思考を深めたりするような発問をしている。 【教職員・努力】 ・生徒は、まとめや振り返りで、自分の考えを表現することができる。 【生徒・成果】	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満		
		② 学力向上プラン・学力向上ロードマップに基づく取組の推進	・「教科部会の内容」については今年度の新たな評価項目である。研究部と連動した教科部会を持ち、学力調査の分析や、発問の工夫等を教科で取り組んで行く。	・教職員は、1人1台端末等のICT機器を、授業の場面に応じて効果的に使用している。 【教職員・努力】 ・教職員は、学力調査の結果を分析し、「学力向上プラン」に基づく指導をしている。 【教職員・成果】 ・教職員は、「教科部会の内容が充実している」と感じている。 【教職員・満足】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満		
2	豊かな心の育成	① 自己肯定感の育成	・教職員からのタイムリーな生徒の自己肯定感・有用感を認める指導をさらに進めていく。(肯定的評価95%、1回答74%) ・「自分には良いところがある」と感じている生徒は81%であるが、3年生は64%と低く、学校行事等で「やり切る」体験を増やしたい。	・教職員は生徒を褒めたり伸ばしたりしながら、長所を認める(伝える)指導をしている。 【教職員・成果】 ・生徒は「自分には良いところがある」と感じている。 【生徒・成果】	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満		
		② 積極的・組織的な「支える生徒指導」の推進	・「学校へ行くことが楽しい」と感じている生徒は89%。 ・「学校におけるいじめ未然防止等の取組を知っている」保護者は87%。さらに学校の教育活動について知らせる工夫を行う。	・教職員は生徒理解に努め、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めている。 【教職員・成果】 ・生徒は「学校へ行くことが楽しい」と感じている。 【生徒・成果】	A: 100% B: 95%以上 C: 90%以上 D: 90%未満		
		③ 道徳教育の充実	・道徳の授業により「自己の成長を感じている」生徒は91%。今年度は、授業における表現の場をさらに創出し、生徒の自己肯定感の伸長につなげたい。	・教職員は道徳の授業において「考え議論する道徳」の実現に取り組んでいる。 【教職員・努力】 ・生徒は、道徳の授業において自分の思いを表現する場面がある。 【生徒・満足】	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満		
3	健康教育の充実と体力向上	① 食育の推進	・毎日朝食を食べている生徒は98%(R4)との回答を得ているが、継続して評価項目とする。	・学校は給食指導等の機会を捉え、食育指導を行っている。 【教職員・努力】	A: 100% B: 95%以上 C: 90%以上 D: 90%未満		
		② 体力・運動能力の向上	・全8種目中、男子はすべての学年で5種目以上が、県平均を上回ったが、女子は平均を上回った種目が4種目以下であった。	・体力テストにおける、県平均値以上の種目数(全8種目) 【生徒・成果】	A: 7種目以上 B: 6種目 C: 5種目 D: 4種目未満		
		③ 適切なメディアの使い方の指導と啓発活動	・メール・ネット等の使用時間は長くなる傾向である。(1時間以上75.1%、3時間以上18.2%)かほく市ネットルールの周知など、使い方を考えさせる機会を設ける。	・学校はネット社会の光と影、マナーとモラルについて指導する機会を設けている。 【教職員・成果】 ・生徒は「かほく市ネットルール」を心がけている。 【生徒・努力】	A: 4回以上 B: 3回 C: 2回 D: 2回未満		
4	円滑な組織運営と学校の活性化	① 組織的な学校運営と校務分掌の確立	・組織としての学校運営について、教職員の意識は高い。ただ、学校評価アンケートの結果を分析した上での改善についての1回答は52%であり、校務分掌部会等を活用し、組織として取組の検証、改善を図る機会を設ける。	・教職員は自己の役割が明確で職務を円滑に遂行している。 【教職員・成果】 ・学校評価アンケートの結果の分析及び学校運営協議会の意見を基に、教育活動の改善位努めている。 【教職員・成果】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満		
		② 学校評価を生かした学校運営					
		③ 信頼される学校づくりのための連携強化	・「学校の方針や子どもの姿が伝わってくる」の設問に保護者の1回答は28%と低い。ホームページの充実等を図り、保護者・地域に発信していく必要がある。 ・コロナ禍の制限が緩和されたことに伴い、教育効果の高い外部人材の活用も進めていきたい。	・小中連携において、教職員間、児童生徒間の交流を通して、相互理解を深めている。 【教職員・成果】 ・学校は相談や問い合わせに適切に対応してくれる。 【保護者・成果】 ・保護者は学校便り・ホームページ等を通して、学校の方針や生徒の様子等を知ることができる。 【保護者・満足】	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満		
		④ コミュニティスクールを生かした魅力ある学校づくりの推進		・学校は、地域の外部人材を積極的に活用している。 【教職員・成果】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満		
5	教職員の働き方改革の徹底	① 教職員の時間外勤務の削減	・時間外勤務時間は、減少傾向にあるが、依然として80時間を超える教員もある。 ・水曜日の効果的な活用法を図り、生徒の放課後の活動時間は保障しつつ、時間外勤務の削減につなげる。	・教職員は、効率的・効果的な取組がなされるような意識を持った働き方(働き方改革)を行っている。 【教職員・成果】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満		